



福島医大産科婦人科学講座教授

添田 周氏

産婦人科疾患の症状
は、腹痛、腹部違和感、
腹部膨満感、腰痛、月経
痛(不正性器出血)以下、
不正出血)、帯下の異常
など多岐にわたります。
その中で、不正出血は月
経以外の出血を指し、妊
娠に関連したものと、子
宮頸管(けいかん)炎な
どの炎症、子宮筋腫や子
宮に発生するポリープ
といった良性疾患、子宮
頸がんや子宮体がんとい
った悪性疾患などに認
められる重要な症状で
す。

要がないこともありま
す。詳細は「表」の通り
です。

日と持続期間と量を伺う
ようにしています。スマ
ートフォンなどで月経を
もおられますし、手帳に

記載することも非常に有
効です。
閉経後の方に不正出血
を認める場合は、器質的
疾患を念頭に診断する必
要があります。約30%に
悪性腫瘍がみられるとす
る報告もあることから、
月経がある年代の方より

悪性疾患のサインも

月経がある方々にとっ
て、出血が月経か不正出
血であるかを見極めるこ
とは決して簡単ではあり
ません。月経は周期が二
十五〜三十八日、変動が
六日以内を正常とし、持
続は三〜七日間とされて
います。そのため、体調
なども影響し周期が一定
にならない方もおられま
す。私たちは外来診療で、
治療を必要とすることが
多いのが特徴です。一方
で、排卵や黄体機能の変
化による出血は「機能的
出血」といい、治療の必
さかのほって月経がきた

も悪性疾患の可能性を考
えた診断が必要になりま
す。子宮体がんは約90%
の方に不正出血を認めま
す。閉経後数年から十年
以上経過した方でも、不
正出血を「また月経がく
るようになった」と、考
える方もおられることが
ら、不正出血についての
教育が大切と感じていま
す。

不正出血は産婦人科疾
患の重大なサインである
こともまれではないこと
から、我慢せず最寄りの
産婦人科を受診するよう
お勧めします。
|| 次回は7月19日掲載 ||

先ほど述べた疾患に付
随する出血を「器質的疾
患に伴う出血」といい、
治療を必要とすることが
多いのが特徴です。一方
で、排卵や黄体機能の変
化による出血は「機能的
出血」といい、治療の必
さかのほって月経がきた

	閉経前	閉経後
器質的出血	子宮筋腫 子宮ポリープ 子宮がん 子宮や腔(ちつ)の炎症 妊娠関連	子宮ポリープ 子宮がん ホルモン産生卵巣腫瘍 子宮や腔の炎症 血液疾患
機能的出血など	排卵出血 黄体機能不全	抗凝固剤使用

不正出血

不正出血の事例